

# 令和6年度 学校（自己）評価最終報告書

石川県立小松工業高等学校

重点目標	具体的な取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	分析（結果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
1 一人一台端末を積極的に活用しながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進することにより、基礎的な知識・技能の定着を図るとともに、思考力・判断力・表現力、コミュニケーション力等の育成を図る。	① 生徒の基礎学力の定着と授業規律の確保を目指す。また、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善を行い、意図的に生徒が表現する場面を確保する。	教務課 各教科	授業規律の確保と生徒の学習意欲の向上、基礎学力の定着が課題となっている。生徒の実態に鑑み、学習意欲を喚起するとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた「アクティブラーニング」の視点から授業改善が求められている。	<p>&lt;努力指標&gt; 自他動画視聴を行い、積極的にアドバイスを行うことにより、授業の改善を行う。</p> <p>&lt;努力指標&gt; 主体的・対話的で深い学びの視点に立って、授業改善に取り組んだ教員の割合が</p>	<p>授業撮影を行い、視聴し意見交換を実施して、授業改善に繋がった教員が</p> <p>A 70%以上である。 B 65%以上である。 C 50%以上である。 D 50%未満である。</p> <p>A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。</p>	<p>(教務課・各教科) 最終評価（A）97.3% 今年度は新たな試みとして、授業の様子を撮影した動画を自他視聴し、積極的にアドバイスを行った。前期の取り組みがなかった教員に積極的に働きかけ実施してもらい、最終的に90%以上の結果となり、授業改善に繋がった。 次年度も継続し、更なる授業改善を図るよう取り組む。</p> <p>(教務課・各教科) 最終評価（B）96% 本校の特徴である学校行事の充実と、授業時間の確保は背反の関係にある。教員はそのジレンマの中で工夫しながら取り組んでいる。 次年度も引き続き授業改善に取り組む。</p>
	② 小松工業ラーニングコンパスを活用し、育む資質・能力を明確にした上で授業を実践する。	教務課 各教科	本校の教育目標に照らし、地域に求められる質の高い学力を身につけさせることが求められている。	<p>&lt;満足度指標&gt; 各教科の指導により、学習内容の理解が深まったと感じる。</p>	<p>授業の中でクラスメイトとの協働的な学びを通して異なる考え方方が組み合わさり、学びが深まった経験のある生徒が</p> <p>A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。</p>	<p>(教務課・各教科) 最終評価（A）95% 授業を通じて課題発見力・解決力がついたと感じている生徒の割合が95%と昨年同様に高い割合を維持しており、1人1台端末が有効に活用されている結果である。 次年度も引き続き育む資質・能力を明確にした上で授業を実践していく。</p>
2 ものづくりによる実践的な技術・技能の習得や、デュアルシステム等の体験的学習に積極的に取り組み、地域に貢献できる人材の育成と個々の生徒の適性に応じた進路の実現を図る。	① 専門高校における知識・技能の習得のパロマーターである資格取得・検定合格に向けて積極的に取り組む。また、ものづくりの技術を向上させ、各種大会等で成果を上げる。	学年会 各学科部活動	目標とする資格・検定指導を戦略的に推進する必要がある。また、各種コンテストに積極的に参加し、同年代の同じ目標をもつ集団の中で切磋琢磨しながら成果を上げていくことが求められている。	<p>&lt;成果指標&gt; 資格・検定指導を推進し、ジュニアマイスターの認定者を多く輩出する。</p> <p>&lt;満足度指標&gt; 各教科の指導により、専門科目の技能が身についたと感じる。</p>	<p>ジュニアマイスター・ブロンズ以上の認定者および認定者と同等のポイントを有する生徒の人数が、</p> <p>A 75名以上である。 B 65名以上である。 C 55名以上である。 D 55名未満である。</p> <p>授業により、専門科目の技能が身につき、課題を発見する力、解決する力がついたと感じている生徒が、</p> <p>A 85%以上である。 B 75%以上である。 C 65%以上である。 D 65%未満である。</p>	<p>(学年会・各学科・部活動) 最終評価（B）70名 多くの生徒が各種検定、資格の取得に向けて意欲的に取り組んでいるが、最終的に（B）で前年度を下回った。 次年度は最終評価（A）を目指し、各種検定、資格取得に向け、手厚い指導に取り組む。</p> <p>(学年会・各学科・部活動) 最終評価（A）95% 本校の特色である工業に関する専門的な学習活動や体験、各種大会の取り組みにより、9割以上の生徒が必要な資質、能力が身についたと実感している。</p>
	② 進路実現を確実なものとするため、インターナンシップ、デュアルシステム等の体験的学習を積極的に取り組むとともに、学習の習慣化と基礎学力の充実・定着を図る。	教務課 進路指導課 学年会 各教科	部活動に熱心に取り組んでいる生徒も多いが、一方で学習時間の確保に苦労している生徒も見受けられる。部活動との両立が重要課題である。	<p>&lt;努力指標&gt; 学習と部活動の両立を目指し、気概と努力が大切であると実感させる。</p>	<p>学習と部活動を両立できたと答える生徒が</p> <p>A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。</p>	<p>(教務課・進路指導課・学年会・各教科) 最終評価（B）79% 前年度よりわずかに下回った結果となつたが、活動にメリハリをつけて取り組むことで、多くの生徒が学習と部活動を両立できた。次年度も引き続き学習の習慣化をさらに充実させる必要がある。</p>
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一台端末の利活用は生徒に浸透しているか。</li> <li>授業の動画撮影の内容・目的はどのようなものか。</li> </ul>				
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策		<ul style="list-style-type: none"> <li>通信環境も整っており生徒は課題研究や課題提出等に有効に活用している。</li> <li>自分の授業を見返したり、多くの教員が見ることができ、授業改善につなげている。</li> </ul>				

# 令和6年度 学校（自己）評価最終報告書

石川県立小松工業高等学校

重点目標	具体的な取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	分析（結果と課題）及び次年度の取り組み（改善策等）
3 「学警連携」「部活動の活性化」「教員の組織連携強化」「いじめ防止のための取組」「校内研修の充実」等を通して、生徒の規範意識やマナーの醸成を図り、生徒にとって安全・安心な学校づくりを目指すとともに社会人として必要な人間力を備えた人材の育成を図る。	① 生徒が積極的に学校行事、部活動に参加し、県内外で成果をあげることで、周囲の期待に応えられるよう、学校行事や部活動の活性化に取り組む。 ② 品位ある服装、爽やかな挨拶、時間厳守など、進路実現に直結する生活姿勢の改善に生徒自らが意識して取り組むよう指導する。また、学警連携を密にするとともに、「いじめとは何か」を題材とした学年集会などを通して安全・安心な学校及び生徒の規範意識の確立に取り組む。	生徒会課 部活動 学年会  生徒指導課 生徒会課 教育相談 学年会 全職員	生徒は、学校行事や部活動に積極的に参加しているが、さらに主体的に活動できる生徒を増やし、生徒がつくる学校行事や主体的に活動できる部活動を目指して、人間力の育成を図ることが求められている。	<成果指標> 生徒会が中心となって行う学校行事（体育祭・工業祭・球技大会等）に自ら進んで参加できた生徒が、 A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。  <成果指標> 県総体の成績で団体、個人ベスト4以上の種目が A 15種目以上あった B 10～14種目であった。 C 7～9種目であった。 D 7種目未満であった。	生徒会が中心となって行う学校行事（体育祭・工業祭・球技大会等）に自ら進んで参加できた生徒が、 A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。  県総体での上位進出の状況をみると、 A 15種目以上あった B 10～14種目であった。 C 7～9種目であった。 D 7種目未満であった。	(生徒会課・部活動・学年会) 最終評価 (A) 95% 後期には体育祭、工業祭など大きな学校行事があり、生徒たちは意欲的に参加していた。生徒が主体的に取り組めるよう、更なる内容の工夫、充実を図りたい。
			校長の指導の下、生徒指導課をはじめ全教職員の協力により、生徒に寄り添う指導効果が実り、生徒の規範意識は向上し、特別指導件数は減少した。しかし、遅刻件数は一定数の常習的な遅刻者が存在し、全体として件数は増加した。自転車交通違反指導件数はわずかながら減少している。今後も、各種関係機関との連携を図りながら規範意識を高める必要がある。	<成果指標> 遅刻件数の前年度比から判断する。  <成果指標> 自転車交通違反指導件数の前年度比から判断する。	前年度と比較し、遅刻件数が A 20%以上減少した。 B 0～20%未満減少した。 C 5%未満増加した。 D 5%以上増加した。  前年度と比較し、違反件数が A 30%以上減少した。 B 20～29%減少した。 C 10～19%減少した。 D 10%未満であった。	(生徒指導課・生徒会課・教育相談・学年会・全職員) 最終評価 (D) 54%増 一部の特定生徒が遅刻を繰り返していることが要因で大幅に増加した。職員一丸となり、該当生徒に対し、保護者と連携して粘り強く指導していく。
				<満足度指標> 生徒の自己評価から判断する。	自ら進んで挨拶てきたと答える生徒が、 A 85%以上である。 B 75%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	(生徒指導課・生徒会課・教育相談・学年会・全職員) 最終評価 (A) 98% 98%と高い水準の評価となった。次年度も継続できるよう取り組んでいく。
				<努力目標> 生徒の状況を的確に把握し、いじめの未然防止・早期発見や生徒一人一人の成長に応じた指導に努める。	生徒情報を共有し、いじめ問題を未然に防ぐよう努めるとともに、問題発生時には早期対応できている教員が、 A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	(生徒指導課・生徒会課・教育相談・学年会・全職員) 最終評価 (A) 93% 教員は非常に敏感に反応している。 引き続き生徒の状況を的確に把握し、いじめの未然防止・早期発見や生徒一人一人の成長に応じた指導に努めていきたい。
4 本校の魅力やものづくりの楽しさを積極的に外部へ情報発信し、本校を志望する中学生の増加を図る。	① 本校独自の魅力やものづくりの楽しさを伝えるために、見てわかる情報コンテンツの積極的活用を図る。	全職員	昨年度同様中学校での説明会、中学生の保護者、教員対象の説明会を開催し、本校の特色や魅力を伝えることができたが、募集定員を超えることはなかった。	<努力目標> 学校HPの更新の工夫、学校紹介のプレゼンデータを更新、外部機関（市教委等）との連携、学校行事の充実やものづくりの魅力を伝える動画作成を進める。	本校を志望する中学生の数が A 募集定員を超える。 B 昨年度と比較して増加。 C 200名を超える。 D 200名未満であった。	(全職員) 最終評価 (B) 定員割れの厳しい状況が続いているが、昨年度と比較し増加した。(203名) 継続して本校の特色や魅力を発信する取り組みを充実させる必要がある。 中学校教員対象の説明会については、日程や実施方法を詳しくについて検討を重ねていく。
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>・こま工ファクトリーは良い取り組みだが今後の課題はあるか。</li> <li>・自転車の交通違反状況について。</li> <li>・遅刻指導に工夫が必要ではないか。</li> </ul>				
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策		<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営については手探り状態だが、商工会議所や高校や小学校で依頼が来ている。今後も継続して取り組んでいきたい。</li> <li>・違反状況は並走、イヤホン、無灯火運転など。生徒への伝達にとどまらず、スタントマンを使ったデモンストレーション等で紹介する方法も検討していく。</li> <li>・遅刻や事故などについては報告、連絡、相談を大切にするように指導している。遅刻が常習化している生徒に対して、防止のための早出登校指導に取り組む。</li> </ul>				